

## 人工ほ乳和子牛の粉ミルクは4週間かけてゆっくり離乳し、発育を改善

分娩後<sup>ぶんべん</sup>36時間以内に母子分離した和子牛の人工ほ乳において、離乳前後に発育停滞を起こす子牛が散見され問題となっている。そこで、ほ育期に発育停滞を起こさない粉ミルクの給与方法を確認するため、離乳に向けての粉ミルクの漸減給与期間を検討した結果、現行の1週間から4週間に延長すると発育停滞を予防できることが分かった。

### 内容

黒毛和種雄子牛14頭を、8週齢から離乳までの粉ミルクの漸減給与期間で3区（1週間区（9週齢で離乳）：5頭、2週間区（10週齢で離乳）：4頭、4週間区（12週齢で離乳）：5頭）設定し、14週齢まで試験した。

粉ミルクは、湯で6倍希釈し1日2回に分けて給与した（写真）。給与量は生後2週間かけて最大給与量（粉ミルク1<sup>キ</sup>g/日）まで漸増し、8週齢まで最大給与量を維持した後、各試験区のとおり給与量を漸減して離乳した。配合飼料は1週齢から、粗飼料はチモシー乾草を3週齢から給与した。発育の指標として体重、体高、胸囲及び腹囲を測定した。

その結果、体重、胸囲及び腹囲の推移については、4週間区が他の2区と比べて高く推移し（図1～

3）特に離乳前後の体重が順調に伸びた。体高の推移は、試験区間に差がなかった。

以上のことから、和子牛の人工ほ乳において、離乳までの粉ミルクの漸減給与期間を1週間から4週間に延長すると、粉ミルクの費用が約3,500円高くなるものの発育停滞が起これずにスムーズに離乳でき、ほ育期の発育が向上することが判明した。また、子牛市場出荷までの発育も良好であることから、高値販売が期待できると考えられた。

### 今後の方針

人工ほ乳和子牛の発育改善に向けた粉ミルクの給与技術として現地に普及する。

坂瀬 充洋（北部 畜産部）

（問い合わせ先 電話：079 - 674 - 1230）



ほ乳風景

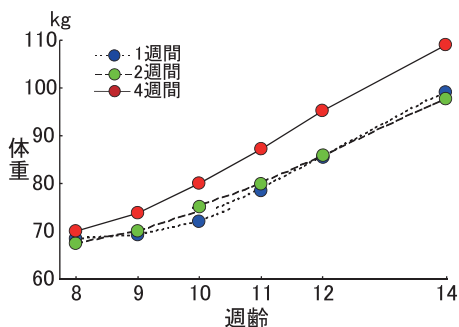


図1 体重の推移

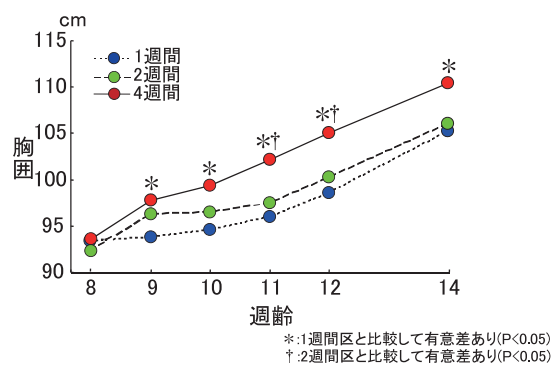


図2 胸囲の推移

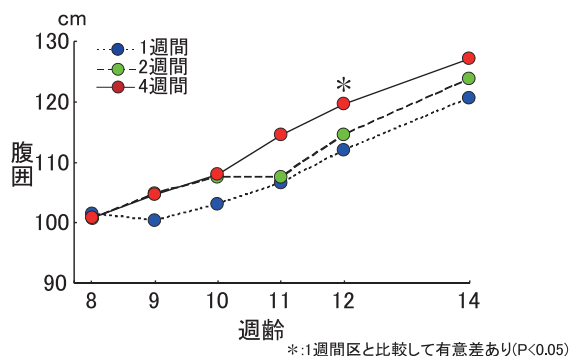


図3 腹囲の推移